



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
10月20日
発行

第153回

「インフレは終わった」

～2022年MVPはバイデン米大統領～

初めに

10月18日の米国株は大幅高となり、これを受けて19日の日本株も上昇しています。米国株高は同国の9月の鉱工業生産指数が予想を上回ったことが理由とされていますが、これまでであれば予想を上回る経済指標はFRBの利上げに繋がりにくいとしてむしろ悪材料と受け止められることが多かったと思います。今回の市場の受け止め方は良好な経済指標に反応した素直なものであり、言い換えれば、日米の株式市場はインフレ離れを始めた、ということになります。今回は、このような株式市場のインフレ離れと今後の見通しについてお話しします。

バイデン大統領のインフレ抑制法案

バイデン米大統領は今年8月にインフレ抑制法を成立させました。この法案によってインフレの抑制を図る、との趣旨だと思われます。当レポートは、今年11月8日の米国中間選挙でバイデン氏が勝利するにはインフレの抑制が絶対条件と主張してきましたが、現段階ではバイデン氏はインフレ抑制に追加的な措置は取っていません。つまり、バイデン氏にとってインフレはもはや問題になっていないことになります。株式市場の反応が変わってきたのは、こうした点が理由と考えられます。

中間選挙と米国株

米国の中間選挙は目前に迫っています。最近の世論調査では僅差ながらも若干共和党優勢というものが多くあります。ただ、米国の株式市場には「中間選挙の年の米国株は弱い。その次の年（大統領選の前年）の米国株は強い」という有名なアノマリーがあります。これを踏まえれば、中間選挙後に米国株に投資する戦略は試してみる価値がありそうです。

2022年のMVPはバイデン氏

米大リーグでは、大谷翔平選手のMVP獲得なるか？が話題になっていますが、もし各国の指導者に与えられるようなMVPがあれば、今年のMVPは文句なしにバイデン氏だと思います。年初の時点では政策を思い通り実行できず、支持率も低いという有様でした。しかし、途中からはインフレやウクライナ戦争などの難問に立ち向かい、まさに八面六臂ともいえる大活躍でした。当レポートでは前回大統領選の時からバイデン氏に注目しており、今年の大活躍は嬉しい限りです。

日本株の年内日経平均3万円見通しは変わらず

最後に、日本株について触れておきます。米国中間選挙後には経験則的に米国株の上昇が見込まれることや、インバウンドによる経済効果が期待できることなどから、日本株への投資もこの先有望と見ています。よって、日経平均の年内3万円達成見通しは今回も継続します。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。